

5:1 キリストは、自由を得させるために私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは堅く立って、再び奴隷のくびきを負わされないようにしなさい。

5:2 よく聞いてください。私パウロがあなたがたに言います。もしあなたがたが割礼を受けるなら、キリストはあなたがたに、何の益ももたらさないこととなります。

5:3 割礼を受けるすべての人に、もう一度はっきり言っておきます。そういう人には律法全体を行う義務があります。

5:4 律法によって義と認められようとしているなら、あなたがたはキリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。

5:5 私たちは、義とされる望みの実現を、信仰により、御霊によって待ち望んでいるのですから。

5:6 キリスト・イエスにあって大事なものは、割礼を受ける受けないではなく、愛によって働く信仰なのです。

5:7 あなたがたはよく走っていたのに、だれがあなたがたの邪魔をして、真理に従わないようにさせたのですか。

5:8 そのような説得は、あなたがたを召された方から出たものではありません。

5:9 わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませるのです。

5:10 あなたがたが別の考えを持つことは決してないと、私は主にあって確信しています。しかし、あなたがたを動揺させる者は、だれであろうと、さばきを受けます。

5:11 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝えているなら、どうして今なお迫害を受けて

いるのですか。それを宣べ伝えているなら、十字架のつまずきはなくなっているはずですよ。

5:12 あなたがたをかき乱す者たちは、いっそのこと切除してしまえばよいのです。

私たちは「自由を得させるため」というイエス様の目的によって救われました。死からの自由、罪の誘惑からの自由、サタンからの自由、そして律法主義からの自由です。自分の頑張りで行ってきたと自負する人は、必ず挫折したときに自分を責めることとなります。または人に責任転嫁するようになります。因果応報の価値観なのです。

神の前の自由な生き方の動機は愛です。「愛によって働く信仰」が大切です。ですからイエス様を愛する思いが尊いのです。そのためには十字架の救いを本当に心から感謝しているかどうか鍵です。そしてそのためには自分の罪深さを知る必要があるのです。

きよめが忍罪から始まって、神への愛にいたるのはそれゆえです。これらは螺旋階段のようにそれぞれが高められて、全体も高められてゆくのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

